

平成27年度上京ワークハウス事業実績報告書

定員 40名（4月～35名。6月～40名）
現員 36名（女性：23名 男性13名） 平均年齢34歳
上京ワークハウス 21名 すてっぷ糸屋 15名
述べ利用者数 8150人 開所日数の合計 254日 平均利用者数 31名

H26年度を振り返って

今年度は、就労継続B型事業所部門で6月末から南小大門町（上京ワークハウス）と糸屋町（すてっぷ糸屋）の2カ所に分かれて実践を始めました。また、2016年2月から新しいカフェ（まんまん堂 café 咲あん）のオープンなど、新しい一歩を踏み出した1年となりました。糸屋町開所前に心配していた近隣住民との関係も、防音対策や職員の仲間への見守りで、大きなトラブルもなく過ごす事が出来ました。

仲間にとっては作業スペースが広くなり、落ち着ける空間が増え安定して過ごせる仲間が多く見られるようになりました。また、個別対応の必要な仲間への支援も行うことが出来るようになりました。一方「寂しくなった」という声も聞かれました。

2月より、公益法人京都保健会のサービス付高齢者住宅の1階に2つ目のカフェをオープンしました。これまでの「まんまん堂」の活動が評価され、出店が実現できました。今後は上京区内での福祉の発展に貢献できることができるようにすすめてまいりたい所存です。地域の方からは「近くに明るいカフェが出来て嬉しい」などの声が寄せられています。仲間もいろんなことを提案し、意欲的に働くことが出来ています。

2カ所のカフェの運営や、施設外就労にも積極的に取り組むことで職員体制の厳しい中でも、施設外就労の機会を増やし工賃の向上に向けて支援にあたりました。

仲間の工賃は、前年度の支払い実績より支給額は伸びました。

仲間への支援のあり方について悩み、職員間での意思統一が困難な事もありましたが、職員会議等で議論を深めることや、外部から講師に来ていただいて学習会を行うことで、支援のあり方を全体で検討し取り組んできたことは、評価すべきことであると思います。

利用者の定員も35名から、40名に増員。（現員36名）職員も12月より、1名（常勤パート）は仲間の支援にあたる職員として、1名は（非常勤）の事務職員として採用することとなりました。また、2月からは新しく出来たカフェの非常勤職員として、2名の職員を採用しました。仲間の支援体制の強化と事務面での充実を図ってきました。

12月に作業所内に泥棒が侵入し盗難の被害に合うという事態が発生しました。以降、警備会社と契約し、防犯に努めていますが、危機管理体制が不十分であったことは、大いに反省するところです。

他団体との連携では、きょうされん活動に参加。現場から職員を派遣し障害のある方が、人として当たり前で生きる事の出来る社会を目指し、多くの事業所とともに運動を進めてきました。

作業実績

- (1) 作業種目 軽作業（箱折り、ダイレクトメール、手芸用品袋詰め、など）
配食サービス（総合生活支援センター聚楽の請負作業）
- 堀川こぶしの里デイサービス前清掃（総合生活支援センター聚楽の請負作業）
- マンション清掃
駐輪場・駐車場清掃
営業（夏・冬・バレンタインの時期に事業所を廻り、物品販売）
自主製品（牛乳パック再生名刺・ハガキ、廃油セッケン、縫製）
蒸しまん・クッキー・ラスク製造・販売
喫茶事業
○手づくり蒸しまん&カフェ“まんまん堂”
○まんまん堂 café 咲あん H28年2月から
- (2) 作業時間 5時間（AM9：30～PM3：30 内80分休憩）
- (3) 利用者工賃 月平均 13,607円

利用者に対する支援内容

作業内容

○施設外就労や出向の機会を設け、社会参加と労働への意欲向上。

出向

ふれあい喫茶（COOP 二条店第1・第3金曜日）

喫茶“ぴあ”（金曜日 月2回）

仏具磨き

営業活動（事業所を回りカタログ販売）

佐川アドバンス（ネット）・きょうされん味と暮らしの特選品に掲載

施設外就労

介護事業所の配食及び事業所前の清掃、マンション清掃、駐輪場・駐車場清掃

職場実習

「福祉から雇用へ」事業の活用 2名。

就労の取り組み

「福祉から雇用へ」事業を活用し2名就労し、1名は雇用継続中。1名は自己都合で退職。

作業以外の事業実績

- ① 自治会活動（上京ワークハウス・すてっぷ糸屋）第1水曜 午後～
話し合い、役員選挙、係り活動、グループ別活動（月1回半日）
- ② 避難訓練 8月、2月の年2回実施。（通報・避難・消火器の使用・アニメ上映）
- ③ 健康診断 第2中央病院にて実施、9月に2回に分けて実施
歯科検診 6月に歯科センターより来所。歯磨き指導も実施
- ④ 芦生山の家（美山町） 宿泊実習 希望者を対象に年2回実施。

- ⑤ うたごえ 指導者に来ていただき歌唱指導を受け、7月の上北うたごえまつりに参加
- ⑥ 療育の取り組み
障害の重い利用者を対象に月1回（2グループに分けて）
所外にて実施。映画、動物園、るり溪、いちご狩り、太陽ガ丘など
- ⑦ 余暇支援 サークル“すまいる”（ほぼ毎月、祝日を利用して希望者対象に実施）
行先：奈良公園、大阪市立科学館、植物園、プールなど、6月・8月以外、実施。計10回。
- ⑧ 創作活動 月1回半日、希望者対象に絵画制作など実施。3月に“ぶらり嵐山”にて作品展“みてみて みてみ”を開催。
- ⑨ 作業所旅行 行先 6月、三重県（パルケエスパーニャ、鳥羽水族館 他）

利用者負担金

希望者のみ芦生山の家宿泊代として1泊4500円
所外活動での飲み物・食事代などは実費
旅行積立金 月2,000円
給食の提供（希望者のみ） 毎週水曜日 400円

その他

- *後援会活動 わくわくフェスタ（11月 8日（日）、元聚楽小学校にて）など
- *家族会活動 旅行説明会、新入所者歓迎会、合同懇親会、個別支援計画説明・指導方針・総括説明きょうされん全国大会参加など
- *つうしんの発行 作業所だより発行。発行部数1000～1200部。
- *きょうされん活動
 - ・10月 9日～10日 全国大会（兵庫）への参加 仲間・家族・職員・理事
 - ・市内ブロック仲間の交流会に参加
 - ・安永健太さん、死亡事件裁判の支援
 - ・署名、賛助会の取り組み

指定特定相談支援事業

- 1、計画相談を専任で行う1年目として、サービス等利用計画・モニタリング作成のながれやテンポを確立することを目標に取り組んできました。作成した手順表に基づいて漏れのないようにすすめてきましたが、誕生月分散化は、行政との関係でも進まず、年度末（2、3月）に集中する結果となりました。事務量が多く、手続きが煩雑な中、提出が遅れセルフプランにしてもらう方もありました。
- 2、本人の生育歴や環境を把握すること、本人・家族の意向をうかがうことを大事に、アセスメントをすすめ、プランを作成してきました。
本人記載のレポート様式を取り入れ、家庭訪問での資料を整備してすすめてきました。

○3、関連のサービス事業所や行政、医療機関との連携をすすめていくことを重視してきました。

関係者会議や日々の連絡を密にすることで、ネットワークが広がりました。しかし、部分的に進むにとどまりました。

法人内での、情報の共有化はほとんど進めることはできませんでした。

ケースファイルや日誌のファイルの改善や、データ化など、個々の生活実態が集団で把握できるようにしていきたいと思います。

また、サービス等利用計画と各サービス事業の個別支援計画を連動させ、一人一人アセスメントに沿って、個人の望む生活、豊かなプランをつくり、ともに実践して振り返り、次のプランに反映していけるよう目指します。

今後、生活の課題がよりクローズアップされてきます。家族やケース担当の職員・関連の機関と連携をとり、ひとつひとつ本人が主体的に解決していけるように支援をすすめていきたいと思います。